

大阪医科薬科大学（後期） 英語

2026年 3月 10日実施

問題 I

- (1) 新たな種が現れると消滅することの多い生物種とは違って、脳はその古い部分に新しい部分を加えることによって発達した。
(別解) 新種が出現してはしばしば消滅する種とは違い、脳は古い部分に新しい部分を加えることで進化したのだ。
(2) もし新皮質をあなたの頭から取り外して、平らに広げることができるなら、それは大きめのテーブルナプキンほどの大きさで、2倍の厚み（約2.5ミリ）があるだろう。
(別解) もし新皮質を頭から取り出し、それをアイロンでのばし平らにできれば、それは大きい食事用ナプキンと大体同じくらいの大きさで、厚さはその2倍（約2.5ミリメートル）になるだろう。
- (あ) B (い) D
- (These) neurons allow the worm to make (simple movements, ~)
- ① B ② A ③ A ④ C
- B
- ⑤ け ⑥ い ⑦ こ ⑧ あ
- D

問題 II

- D
- E
- B
- C
- A, C
- A
- B
- C, D
- ① う ② け ③ さ ④ お ⑤ き

問題 III

- (1) “Shojin Ryori” is a traditional Japanese vegetarian cuisine that doesn’t include meat or fish.

【別解】

“Shojin Ryori” is a traditional Japanese vegetarian cuisine made without meat or fish.

- (2) The custom of eating dishes made of vegetables, beans and grains is based on the idea that humans should not kill animals, and it spread among those who obeyed the idea.

【別解】

The convention of eating dishes made from vegetables, beans, and grains stems from the belief that animals should not be killed, and has become common among people who follow this belief.

- (3) The word “Shojin” means strengthening our mind and body, and taking dishes like this is thought to amount to spiritual training.

【別解】

The word “Shojin” refers to the training of both mind and body, and eating such food is considered to serve as spiritual discipline.

<解説> [以下の構造説明においては、 が S、 が V、 が O、 が C を表す]

I 長文総合

1. [下線部和訳]

- (1) 和訳すべき 1 文の構造を確認する。

<Unlike species which often disappear <as new ones appear>>,

the brain evolved <by adding new parts on top of the older parts>.
 s v

unlike は「～と違って」という意味の前置詞。species は「種（しゅ）」。which は species を先行詞とする主格の関係代名詞。as はここでは後ろに SV が続いていることから接続詞である。接続詞の as の意味は実に多岐にわたるが、ここでは「～するとき、～すると」という意味で解釈するとわかりやすいだろう。ones は species の言い換えである。「新しい種が現れると、しばしば消滅する種とは違い」がここまでの直訳。少し工夫して「新しい種が現れると消滅することが多い種とは違って」などと訳してもよいだろう。

次に主文の部分だが、“the brain” が主語で evolved が動詞である。evolved の目的語が見当たらないことから、ここでは自動詞での用法である。「発達した」あるいは「進化した」と訳す。次に、“by adding new parts on top of the older parts” の部分だが、まず <by doing ~> で「～することによって」という意味である。なお、2026 年度前期試験の大問 1 で、この by の部分を空所補充で問う問題が出ていた。また <on top of ~> で「～に（加えて）」の意である。

ex. He was a businessman, and a musician *on top of* that.
彼は実業家である上に音楽家でもあった。

したがって全体としては「脳はその古い部分に新しい部分を加えることによって発達した」と訳せば十分だろう。

- (2) 和訳すべき 1 文の構造を確認する。

<If you could remove the neocortex <from your head> and iron it flat>,
 s v o v o c

it would be about the size of a large dinner napkin and twice as thick (about 2.5 millimeters).
s v c c

全体としては典型的な仮定法過去が用いられた文である。丁寧に訳していこう。
まずは if 節から見ていこう。remove は from とともに使われると「～から動かす (=move)」の意味になることから、ここでは「頭から脳を取り出す、取り外す」が適切である。次に “iron it flat” の部

分であるが、it はもちろん “the neocortex” を指す。iron は動詞で「(しわなどを) アイロンをかけて伸ばす」という意味。したがって、この部分の直訳としては「それ(新皮質)にアイロンをかけて平らにする」となる。ただしここでは、実際にアイロンをかけるわけではなく例えであるので、単に「のばして平らにする」でも良いだろう。したがって節全体としては「もし頭から新皮質を取り出し、それをのばして平らにすることができれば」という意味になる。

次に主文を見ていこう。主語の it は同じく “the neocortex” を指す。“about the size of a large dinner napkin” は「大きめの食事用ナプキンとだいたい同じくらいの大きさ」の意。“twice as thick” の部分がやや難しいがしっかり省略を補うと、これは “twice as thick as a large dinner napkin” である。したがって「(そのナプキンの) 2 倍の厚さ」の意である。そしてその実際の厚みが(約 2.5 ミリメートル)と補足されているのである。なおカッコの処理であるが、シンプルに「2 倍の厚さ(約 2.5 ミリ)」と処理してよい。

2. [同義語選択]

(あ) evident

- A. 「陽気な、快活な」
- B. 「明らかな」
- C. 「疑わしい」
- D. 「懐疑的な」
- E. 「間違った」

正解は B。下線部を含む 1 文の意味は「チャールズ・ダーウィンが進化論を発表して間もなく、生物学者たちは、人間の脳自体も時間をかけて進化してきたこと、そしてその進化の歴史は脳を見るだけで明らかなことに気づいた」である。evident は「明らかな、明白な」という意味の形容詞である。よって、B が正解である。

(い) critical

- A. 「進行中の」
- B. 「ずば抜けた、目立った」
- C. 「やりがいのある、困難な」
- D. 「非常に重要な、決定的な」
- E. 「快適な」

正解は D。下線部を含む 1 文の意味は「私たちがどれほど賢く洗練されていようとも、呼吸、食事、生殖、反射反応は依然として私たちの生存にとって不可欠なのである」である。critical は「非常に重要な、不可欠な」という意味の形容詞である。よって、D が正解である。

3. [語句整序問題]

下線部(A)の冒頭に置かれた These に対応する複数形の名詞は neurons である。動詞は allow と make の 2 つがあるが、to も選択肢にあることから、<allow O to do ~> を用いると予想できる。そうすると、O は “the worm” と定まり、その目的格補語には “make (simple movements)” と続けることになる。これにより、「これらのニューロンはワームが単純な動きをすることを可能にする」という意味が成り立つ。

4. [空所補充問題]

①

- A. 「古い」
- B. 「新しい」
- C. 「清潔な」
- D. 「汚い」

②

- A. 「より古い」
- B. 「より新しい」
- C. 「より清潔な」
- D. 「より汚い」

①の正解はA、②の正解はB。空所①と②を含む1文のおよその意味は「時間の経過とともに、脳は～部分の上に～部分を進化させることによって、ますます複雑な行動ができるようになった」である。下線部(1)が根拠となる。「新たな種が現れると消滅することの多い生物種とは違って、脳はその古い部分に新しい部分を加えることによって発達した」という内容から、①には「古い」、②には「新しい」という意味の単語が必要である。

③

- A. 「知能」
- B. 「繊維」
- C. 「生存」
- D. 「類似点」

④

- A. 「視覚」
- B. 「生物学者」
- C. 「新皮質」
- D. 「脊髄」

③の正解はA、④の正解はC。空所③と④を含む1文のおよその意味は「もし私たちが～を理解したいのであれば、～が何を行っているのか、そしてそれをどのように行っているのかを理解しなければならない」である。第4段落第1、2文が根拠となる。それらの意味は「新皮質は知能の器官である。視覚、言語、音楽、数学、科学、工学など、私たちが知能と見なす能力のほぼすべては、新皮質によって生み出されている」である。この内容から、③には「知能」、④には「新皮質」という意味の単語が必要である。

5. [内容一致問題]

- A. 「子供の世話をするような高度な行動をとるのは人間だけである」
- B. 「複雑な生活を送るために、すべての生物種が新皮質をもっているわけではない」
- C. 「ワニと人間は全く同じ脳の機能を持っている」
- D. 「ワニは適切な新皮質を持っているため、自分の子供の世話をすることができる唯一の動物である」

正解はB。第5段落第1文が根拠となる。その1文の意味は「動物が複雑な生活を送るために新皮質は必要ない」である。Aについては同段落第3文、CとDについては第2文に反する。それらの意味は「ワニの脳は私たちの脳とほぼ同等であるが、まともな新皮質はない。ワニは高度な行動をとり、子育てをし、自分の環境をうまく進む方法を知っている」である。

6. [空所補充問題]

最終段落の空所に適切な語を入れる問題である。順に見ていこう。

(⑤)

まず構造を確認すると、“need to”に続く箇所であるから動詞の原形を選べばよい。この時点で候補は、う. compete 「競う」あるいは、け. cooperate 「協働する」の2つに絞られる。

次いで文脈を確認しよう。最終段落第1文と空所を含む第2文には、「新皮質と脳の古い部分は神経線維を介して接続されており、それゆえ、両者を完全に別の器官と考えることはできない。それらはどちらかと言えばルームメイトに似ており、やるべきことや個性はばらばらだが、なにかを成し遂げるには (⑤)する必要がある」とある。とくに第1文の「接続されており」あるいは「両者を完全に別の器官と考えることはできない」という記述から、両者をつながりのあるものとして捉えていることがわかる。

II 長文総合

1. [同義語句選択] 「(1) hordes of tourists と最も意味が近い選択肢を選べ」

- A. 「2、3人の運転手」
- B. 「数人の道に迷った旅行者」
- C. 「地元の人々の集団」
- D. 「おおぜいの訪問者」
- E. 「ツアーガイドとそのチーム」

正解は D。下線部を含む 1 文のおよその意味は「東京、京都、大阪といった人気観光地の通りを歩く～を見るのは日常茶飯事となっている」である。第 1 段落第 2 文に「2010 年には、海外から 800 万人近くの人が日本を訪れた」とあり、また同第 3 文に「2015 年には、その数は 2000 万人近くに増加した」とあることから、海外から多くの人が日本を訪れていることがわかるため、D を選ぶ。また、horde は「大群、多数、群衆」という意味である。

2. [同義語句選択] 「(2) be spotted と最も意味が近い選択肢を選べ」

- A. 「断食される」
- B. 「隠される」
- C. 「想像される」
- D. 「軽減される」
- E. 「目撃される、見かけられる」

正解は E。下線部を含む 1 文前半のおよその意味は「観光客は今や、遠く離れた村や地元の人しか知らないようなレストランでも～」である。直前の第 1 段落第 4 文に「東京、京都、大阪といった人気観光地の通りを歩く大勢の観光客を見るのは日常茶飯事となっている」とあることから、観光客は人気観光地以外でも目撃されていると考えられるため、E を選ぶ。また、動詞 spot は「～を見つける」という意味である。

3. [同義語句選択] 「(3) brave と最も意味が近い選択肢を選べ」

- A. 「～を恐れている」
- B. 「思い切って訪れる」
- C. 「～に行くのをためらう」
- D. 「訪問を拒否する」
- E. 「～に行ったことを後悔する」

正解は B。下線部を含む 1 文のおよその意味は「従来は敬遠されていたような場所にも～」である。この直前の第 1 段落第 5 文の前半に「観光客は今や、遠く離れた村や地元の人しか知らないようなレストランでも見かけられ」とあることから、観光客はこれまで訪れることのなかったような場所にも足を運んでいることがわかるため、B を選ぶ。また、動詞 brave は「勇敢に立ち向かう」という意味である。

4. [理由説明] 「下線部(4)の理由として最も良いものを選べ」

- A. 「日本がすでに中国や韓国などの外国からの観光客に依存するようになっていたから」
- B. 「日本が自国の高度な技術を外国人観光客に見せたかったから」
- C. 「電子機器や自動車の製造が、海外からの収入を生み出す上で主要な役割を果たしていたから」
- D. 「様々な国からの観光客が日本に外貨をもたらさなくなったから」
- E. 「観光業が電子機器や自動車の製造よりも利益が高かったから」

正解は C。下線部の意味は「日本を訪れる人の数は、電子機器や自動車の製造業に比べて比較的軽視されるようになった」である。その直後に続く“~, which helped earn foreign currency.”に含まれる which の先行詞は“the manufacturing of electronics and automobiles”「電子機器や自動車の製造」であり、その部分の意味は「電子機器や自動車の製造は外貨獲得に貢献した」であることから、観光業による海外からの利益よりも、製造業による海外からの利益の方が重要であったことがわかるため、C を選ぶ。

5. [理由選択問題] 「下線部(5)の理由を2つ選べ」

- A. 「日本の産業は、中国や韓国のような国々との競争激化により競争力を失いつつある」
- B. 「日本は製造業基盤の経済を強化するため、電子機器と自動車のみに注力する計画である」
- C. 「日本は電子機器や自動車の製造以外の代替的な収入源を開発する必要がある」
- D. 「日本は文化遺産や歴史的遺産を未来の世代のために保護すべく、観光客数を制限したいと考えている」
- E. 「日本のインターネット経済は現在、電子機器や自動車製造などの伝統的産業よりも優れていると考えられている」

正解は A と C。下線部を含む第3段落第1文の意味は「しかし最近では、日本への訪問を奨励する動きが活発になっている」である。Aについては、同段落第2文が根拠となる。その1文の意味は「現在、日本の産業は、中国や韓国のような国々との競争に直面していることに加え、アメリカから押し寄せるインターネット主体経済の優位性により、その力を失いつつある」である。Cについては、同段落第4文が根拠となる。その1文の意味は「現在、経済産業省は、国の『ソフトパワー』を外貨獲得の仕組みに不可欠な一部と見なしている」である。

6. [同義語選択問題] 「この文脈において、(6) flawless に最も意味が近い選択肢を選べ」

- A. 「完璧な」
- B. 「貧弱な、お粗末な」
- C. 「残念な」
- D. 「汚れた」
- E. 「遺憾な、嘆かわしい」

正解は A。下線部を含む1文の意味は「新幹線のほぼ完璧な運行から、ファーストフードチェーンにおける驚くほど効率的で迅速な牛肉料理（牛丼など）の提供まで、日本人が当たり前だと思っていることが、他国の人々を感動させ、時には畏敬の念さえ抱かせる傾向がある」である。flaw は「瑕疵、きず」という意味であり、そこから flawless は「無傷の、完璧な、欠点のない」という意味になる。

7. [同義語選択問題] 「この文脈において、(7) meticulously に最も意味が近い選択肢を選べ」

- A. 「不意に、唐突に」
- B. 「注意深く、入念に」
- C. 「大雑把に、乱暴に」
- D. 「突然に」
- E. 「驚くほど」

正解は B。下線部を含む1文の意味は「公衆トイレ、コンビニエンスストア、そして公共交通機関全般が、細心の注意を払って運営されていると見なされている。地元の日本人は親切で助けになると称賛されている」である。meticulous は「極めて注意深い、慎重な」という意味である。

8. [語句説明] 「この文脈において (8) hiccups と意味が似ている表現を2つ選べ」

- A. 「高い水準」
- B. 「A+（最高評価）」
- C. 「水準の低下」
- D. 「無能な人々や組織」
- E. 「サービスの質と親しみやすさ」

正解は C。下線部(8)を含む1文の意味は「言うまでもなく、ちょっとした不都合は時折起こる。他どの場所とも同じように、日本にも無能な人々や組織は存在する」である。続く第5段落第2文「高い水準を維持することに常に熱心な日本人自身が、水準の低下について不満を漏らすこともよくある」が、この1文を具体的に言い換えたものだと考えられるため、C. 「水準の低下」および、その具体例である D. 「無能な人々や組織」が正解である。なお、下線部の hiccups は、「しゃっくり、ちょっとした不都合、小さな問題、一時的な低下」という意味である。

9. [空所補充問題] 「各空欄 (①～⑤) に最もふさわしい語を以下の表から選べ。(各選択肢は一度しか使用できない)」

空所 (①～⑤) を含む第7段落の英文とその和訳は以下の通り。

Kodawari is a concept difficult to translate. In English it is often rendered as ‘commitment’ or ‘insistence.’ However, these words, like many concepts nurtured in a particular **cultural** context, do not adequately capture the true meaning of the word. *Kodawari* is a personal standard, to which the individual adheres in a dedicated manner. It is often, though not always, used in **reference** to a level of quality, or professionalism to which the individual holds. It is an attitude, often maintained **throughout** one’s life, constituting a central element of *ikigai*. *Kodawari* is personal in nature, and it is a manifestation of a pride in what one **does**. In a nutshell, *kodawari* is an approach whereby you take extraordinary care **of** very small details.

「こだわりは翻訳するのが難しい概念である。英語では、しばしば『commitment(献身)』や『insistence(固執)』と訳される。しかし、特定の文化的背景の中で育まれた多くの概念と同様に、これらの単語はその単語の真の意味を適切には捉えきれていない。こだわりとは個人的な基準であり、個人が献身的な態度で固執するものである。それは常にではないにせよ、個人が保持する品質のレベル、あるいはプロ意識に関連して使われることが多い。それは生涯を通じて維持されることの多い態度であり、生きがいの中心的要素を構成している。こだわりは本質的に個人的なものであり、自分が行うことへの誇りの表れである。簡単に言えば、こだわりとは非常に小さな細部にまで並々ならぬ注意を払うアプローチなのである」

(①)については、 context を修飾する形容詞が入る。第7段落第3文以降の内容より、こだわりを英語に翻訳する際に考慮に入れなければならないのは、この言葉が用いられる文化的背景だと考えられる。よって、う. cultural が正解。

(②)については、前置詞 in の目的語となる名詞が入る。 <in reference to ~> 「～に関連して、～を参照して」を想定すると、文意が通る。け. reference が正解。

(③)については、“one’s life” を目的語とする前置詞が入る。さ. throughout が該当すると考えると、“throughout one’s life” は「生涯を通じて」という意味になり、文意が通る。

(④)については、主語 one に対応する他動詞が入る。お. does が該当すると考えると、“a pride in what one does” は「自分が行うことへの誇り」という意味になり、文意が通る。

(⑤)については、“very small details” を目的語とする前置詞が入る。 <take care of ~> 「～に注意を払う」を想定すると、文意が通る。き. of が正解。

- (3) The word “Shojin” means strengthening our mind and body, and taking dishes like this is thought to amount to spiritual training.

[別解 1]

The word “Shojin” refers to the training of both mind and body, and eating such food is considered to serve as spiritual discipline.

[別解 2]

What the term “Shojin” represents is the refinement of both mind and body, and consuming this type of food is believed to foster psychological discipline.

[別解 3]

The word “Shojin” stands for cultivating both the spirit and the body, and adopting this way of eating is deemed to be a form of inner discipline.

[別解 4]

The word “Shojin” is commonly associated with fortifying the mind and body, and following this dietary practice is held to help cultivate one’s inner self.

- (3) 『精進(Shojin)』ということば

	the word “Shojin” / the term “Shojin” など。
「心身を鍛える」	strengthening our mind and body / the training of both mind and body / the refinement of both mind and body / cultivating both the spirit and the body / fortifying the mind and body など。
「意味であり」	mean / refer to / represent / stand for など。
「このような料理を食すこと」	taking dishes like this / eating such food / consuming this type of food / adopting this way of eating / following this dietary practice など。
「精神的な訓練になる」	amount to spiritual training / serve as spiritual discipline / foster psychological discipline / be a form of inner discipline / cultivate one’s inner self など。
「考えられている」	be thought to <i>do</i> ~ / be considered to <i>do</i> ~ / be believed to <i>do</i> ~ / be deemed to <i>do</i> ~ / be held to <i>do</i> ~ など。

講評

- I [長文総合] (やや易) 「脳の進化上の特徴である新旧の皮質の役割・協働・対立」に関する英文。英文そのものは医学系長文への慣れがあれば読み易く、特に悩むところはない。2026年度前期とは設問タイプに違いはあるが、特に難しさはない。
- II [長文総合] (やや易) 「日本における外国人観光客増加と『こだわり』の意味」に関する英文。常識的な内容であり、特に悩むところはない。設問タイプも2026年度前期とほぼ変わらない。
- III [英訳] (標準) 「精進料理の意味」を論じた日本語文。2026年度前期と同様に日本文化に関する話題であるが、前期と違って日本語通り構成できるタイプの問題で、取り組み易い。

大問構成は例年通り3題で、2026年度前期とほぼ同様の設問形式である。前半2題の長文問題を合わせても和訳問題が2問のみで、説明問題は含まれない。英訳問題のみ得点に差の出る可能性のある大問となっている。全体としては易化。目標は75%

メルマガ無料登録で全教科配信！ 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156

医学部進学予備校

メビオ

☎0120-146-156 <https://www.mebio.co.jp/>



医学部専門予備校
英進館メビオ 福岡校

☎03-3370-0410
<https://yms.ne.jp/>

☎0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>



登録はこちらから

2泊3日無料体験

授業 × 食堂 × 寮 を無料で体験できる！

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
1日目							面談・入寮				学力診断テスト(英語)	夕食	学力診断テスト(数学)	学力診断テスト(適性)
2日目	朝食	授業(数学)	授業(英語)	昼食	授業(理科1)	授業(理科2)	自習室で課題演習(質問可)	夕食	自習室で課題演習(質問可)					
3日目	朝食	課題提出テスト	授業(数学)	課題提出テスト	授業(英語)	昼食	面談・学習アドバイス							

無料体験期間
 【第6回】3/15(日)～3/17(火)
 【第7回】3/22(日)～3/24(火)

満席間近！
お申し込みはこちら▶



☎0120-146-156

校舎にて個別説明会も随時開催しています。
【受付時間】9:00～21:00(土日祝可)

大阪府大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋
天満橋駅(京阪/大阪メトロ谷町線)より徒歩